書式サイズA4版

様式第5号（第9条関係）

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号	空　欄	氏　名	鴨門 大輔
Plasma Renin Activity Is an Independent Prognosticator in Patients With Myocardial Infarction 血漿レニン活性値は，急性心筋梗塞患者の独立した予後予測因子である			

論文内容の要旨

【背景】

急性心筋梗塞（AMI）は，心血管死や心不全の最も重要な原因の一つである．BNP が，AMI 患者の予後予測マーカーであることが知られている．一方，血漿レニン活性（PRA）値に関しては，急性心不全患者における来院時の PRA 値が，長期予後と関連しているといわれている．我々は，AMI 患者における PRA 値が，予後と関連しているという仮説を立て，PRA 値が，AMI 患者において予後予測因子となるかどうかを検討した。

【方法と結果】

2007 年から 2016 年の間に，発症後 48 時間以内の AMI のため，当院に入院し，心臓カテーテル検査を施行し，生存退院した 936 例のうち，来院時に PRA 値が測定された 878 例を対象とした．来院時の PRA の中央値（2.0 ng/ml/h）により対象群を 2 群（High PRA 群，Low PRA 群）に分類した．High PRA 群は，448 例で，Low PRA 群は，430 例であった．エンドポイントは，心血管死と心不全入院の複合エンドポイント（MACE）として，2 群間で比較検討した．4.5 年の観察期間で，MACE は，108 例であった．High PRA 群において MACE の発生頻度は，Low PRA 群に比べて有意に高かった（15.9% vs 8.6%，P= 0.0010）．年齢や性別，来院時の BNP や eGFR や EF などの各因子で調整した後の多変量解析においても High PRA は，MACE の独立した予後予測因子であった（HR 1.573；95%CI，1.049-2.396，P= 0.0282）．さらに，AMI 発症時に RAS 阻害薬を内服していた症例を除外した 603 例を対象としても，High PRA は，MACE の独立した予後予測因子であった（HR 1.701；95%CI，1.010-2.927，P= 0.0459）．それに加えて，AMI 発症時に RAS 阻害薬または β 遮断薬を内服していた症例を除外した 580 例を対象としても，High PRA は，MACE の独立した予後予測因子であった（HR 1.732；95%CI，1.010-3.047，P= 0.0460）．

【考察】

これまでにも他疾患患者において PRA が，予後予測因子となる報告はあった．しかし，AMI 患者において，来院時に，PRA に大きな影響を与えることが知られている RAS 阻害薬と β 遮断薬を内服していた症例を除外して PRA の有用性を検討した報告は，本研究が初めてである．

【結語】

AMI 患者の来院時の PRA の高値は，独立した予後予測因子であった．